

都市再生整備計画 事後評価シート
行橋地区

令和4年2月

福岡県行橋市

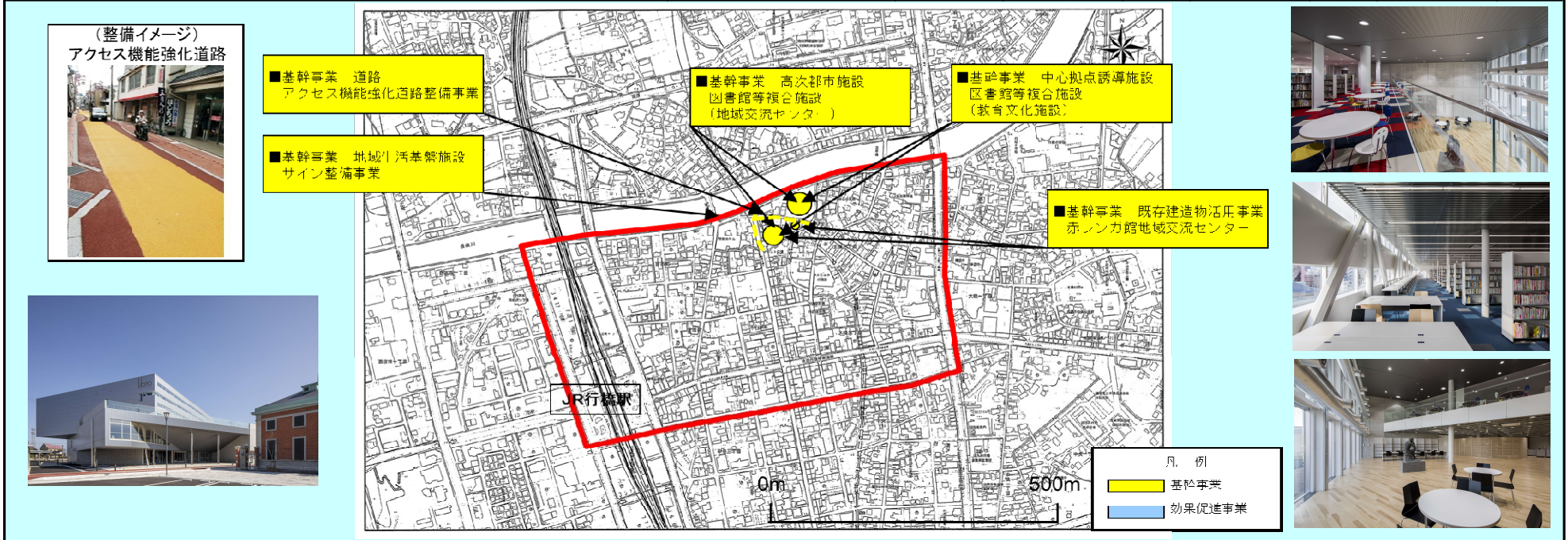
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	行橋市		地区名	行橋地区			面積	28ha			
交付期間	平成27年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	2,954.9百万円	国費率	0.5					
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	アクセス機能強化整備事業、サイン整備事業、商店街歩きやすい舗装事業、図書館等複合施設(地域交流センター)、図書館等複合施設(教育文化施設)、赤レンガ館地域交流センター											
		提案事業	-											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	商店街歩きやすい舗装事業	工事施工に伴い、事前に説明会を行った際、工事期間中の営業や通行・通学に関する意見が多く上がり、日程調整が難航した結果、実施スケジュールが不透明となった。また、本工事のカラー舗装の包含については、PFI事業者との協議により決定されるものであるため、事業計画・上、事業の最終年度に施工しなければならなかった。以上の結果より、本事業の実行度が低く、地元からの意見を重視し、本事業の実行を中止する。				指標「中心市街地の歩行者数」の目標値を1,500人から1,487人に変更						
		提案事業	-											
	新たに追加した事業	基幹事業	図書館等複合施設(地域交流センター)	既存公有地及び隣接する低未利用地を活用し整備することにより、中心市街地の賑わいの再生を図り、人が集まる交流施設として定住促進を図る。また、一体活用を行う赤レンガ館に隣接する公共広場と民間用地を一体的に図書館等複合施設と赤レンガ館の専用駐車場として整備することで、利便性の向上を図るため。				影響なし						
		提案事業	-											
	交付期間の変更	当初	H27～H29		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
		変更	H27～R2											
	2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
指標1		赤レンガ館のイベント実施数	回/年	26	H25	45	R2	-	9	×	あり なし	○	道路整備によりアクセス機能の強化や専用駐車場の整備、サイン整備を行い来訪者への利便性やイメージの向上を図ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で閉館であったり、イベント開催ができない状況であった。	令和4年度
指標2		(一社)行橋市観光協会への補助金額	千円/年	17,668	H28	12,000	R2	-	6,760	○	あり なし	○	新型コロナウイルス感染症の影響でイベント数自体が減少し、結果として補助金も減少したという流れであるため、自立できているかどうかは判断できない。	
指標3		中心市街地の歩行者数	人/日	1,371	H26	1,487	R2	-	1,512	○	あり なし	○	新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛があったものの、目標値を上回る結果となった。	
指標4											あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
	その他の数値指標1	-												
	その他の数値指標2	-												
その他の数値指標3	-													
4) 定性的な効果発現状況	-													
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

行橋地区(福岡県行橋市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
子どもから高齢者まで市民一人ひとりが、心豊かな生活を送り、教育や文化に触れる機会やコミュニティの場を創出し、定住を促進するまちづくりを進める。さらに、「ひとが集まる」まちとして、駅を中心に都市機能を誘導、集積した安全安心で快適な都市基盤や居住環境を整備することにより、集約型都市づくりによる賑わいのある中心市街地の形成や魅力の向上と土地の有効利用を図る。	赤レンガ館のイベント実施数	単位: 回/年	26	H25	45	R2	9	R2
	(一社)行橋市観光協会への補助金額	単位: 千円/年	17,668	H28	12,000	R2	6,760	R2
	中心市街地の歩行者数	単位: 人/日	1,371	H26	1,487	R2	1,512	R2
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H



まちの課題の変化

- ・書架の増数や利用スペース拡大を図り、快適な利用空間を創出した。
- ・図書館等複合施設の前面道路は一方通行かつ狭い道路であるため道路の幅員を広くしアクセス強化と歩行者の安全を確保したが、周辺道路の一部はバリアフリー化や歩道整備が不十分である。また施設案内のサイン整備を行い来訪者へのイメージ向上も図った。
- ・歴史的資源である赤レンガ館を回収し、図書館等複合施設と一体活用することにより、市民のまちに対する誇りと愛着を回復し、魅力の向上を図った。
- ・公共広場と民間用地を図書館等複合施設と赤レンガ館の専用駐車場として整備を行い、利便性の向上を図った。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・図書館等複合施設の快適な利用空間の創出を持続させるために、PFI事業者と連携し時代に合わせた空間の確保や利用者からの意見を反映させて快適で利用しやすい施設を維持していく。
- ・市民のまちに対する誇りと愛着を持続させるために、図書館等複合施設や赤レンガ館を活用して、行橋地区を回遊し時間消費できるイベント等を継続して実施する。
- ・アクセス強化と歩行者の安全を改善という点では、県道行橋停車場線が整備されることによりアクセス面の強化が図られる。また、周辺道路の一部では整備が不十分であるため、バリアフリー化や歩道の整備を行い、歩行者の安全を確保する。